

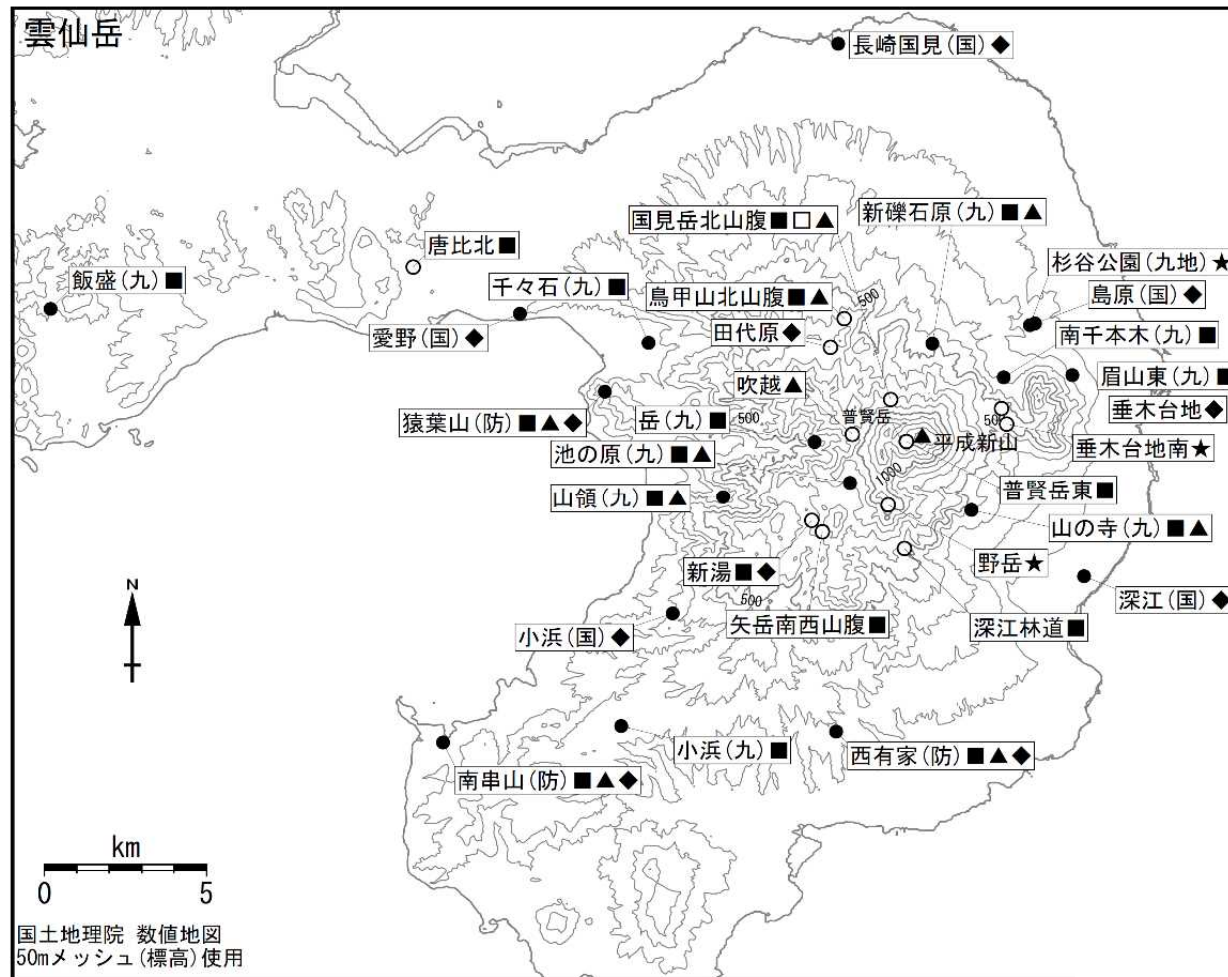
雲仙岳の火山活動状況

令和4年度 雲仙岳火山防災協議会

令和5年2月15日

長崎地方気象台
福岡管区気象台

観測点配置図



観測点配置図

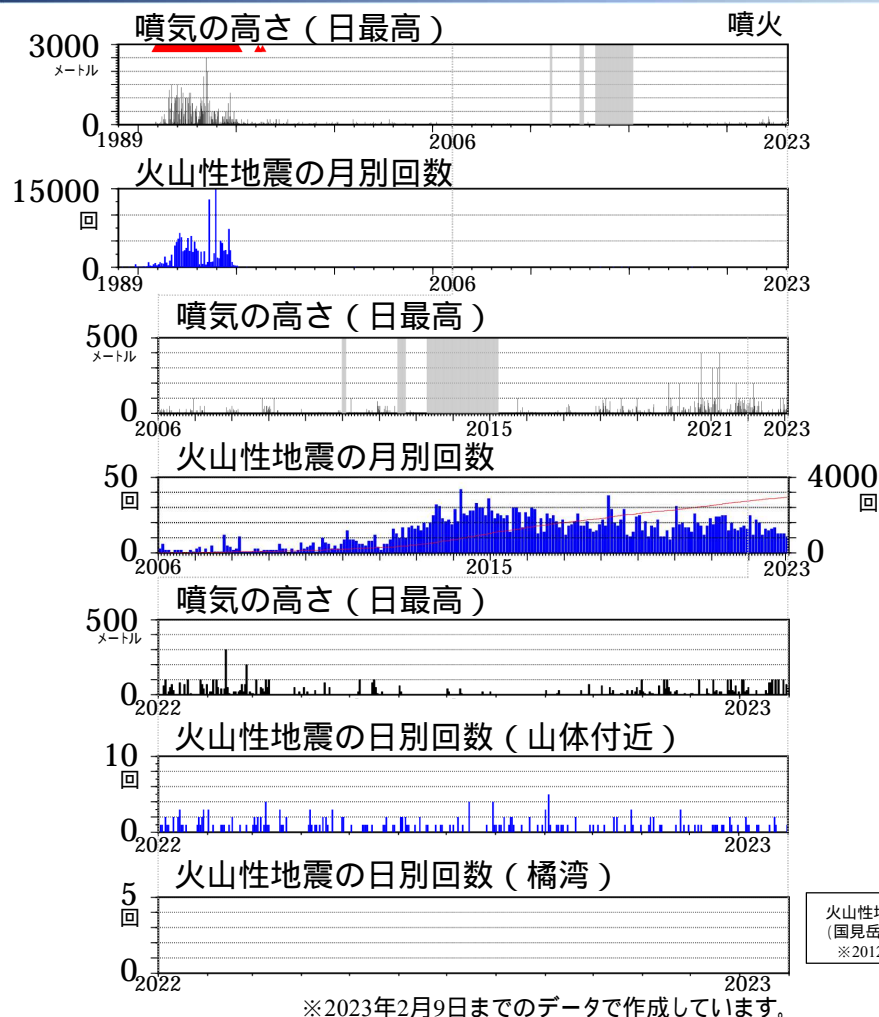
白丸()は気象庁、黒丸()は気象庁以外の機関の観測点を示す。

(国)：国土地理院、(九)：九州大学、(防)：防災科学技術研究所、(九地)：九州地方整備局

観測点名称の横の図形は観測機器を示す。

：地震計 ：空振計 ：GNSS ：傾斜計 ：監視カメラ

火山活動経過図



雲仙岳 平成新山の状況 (2022年2月12日)

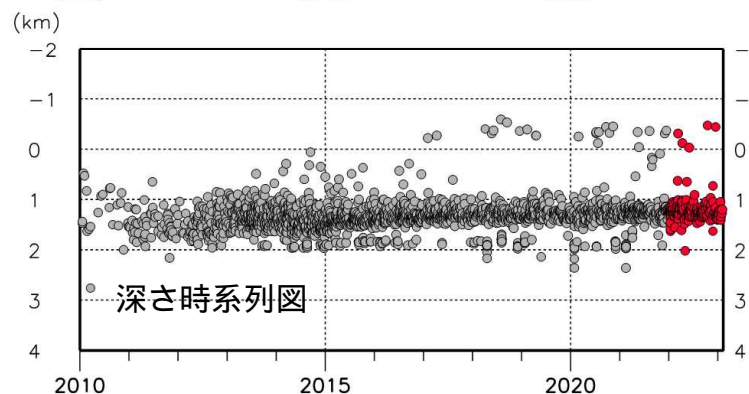
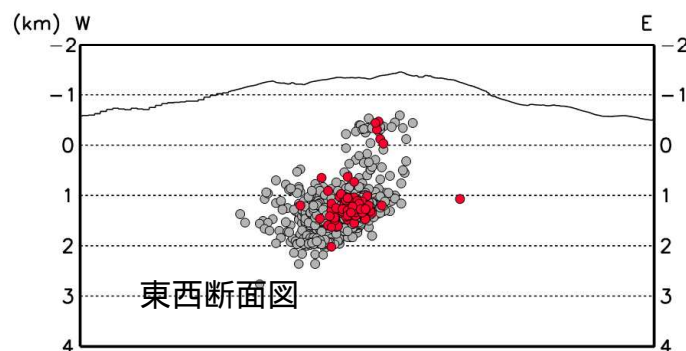
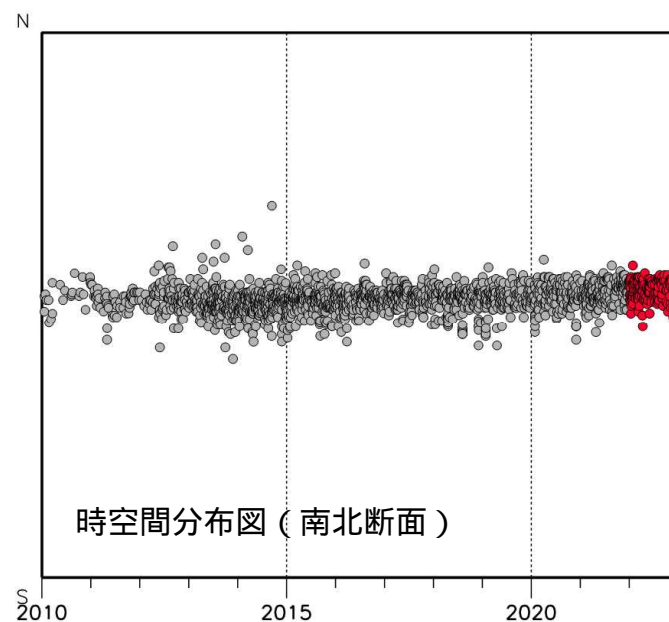
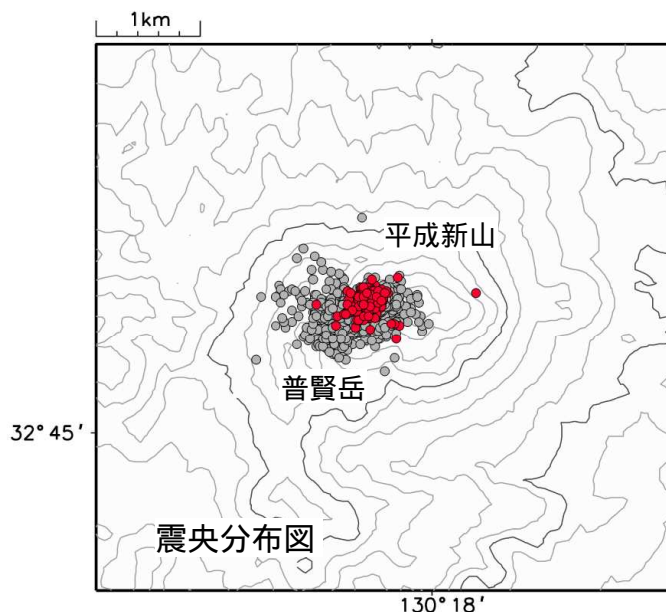
2022年は、白色の噴気が噴気孔上300mまで上がりました。
(野岳監視カメラによる)

火山性地震の計測基準
(国見岳北山腹) 上下動 2 μm/s以上 S-P 2.5 秒以内
※2012/8/31まで (矢岳南西山腹) 上下動 5 μm/s

火山活動経過図 (1989年 ~ 2006年 ~ 2021年 ~)

- ・ 白色の噴気が時々観測されています。2022年は最高で噴気孔上300mまで上がりました。
- ・ 普賢岳から平成新山直下の深さ1 ~ 2 kmを震源とする火山性地震は、2010年以降やや増加しています。
- ・ 火山性地震の回数は1日あたり数回程度と少ない状態で経過しています。
- ・ 橘湾を震源とする火山性地震は、2022年は観測されませんでした。

火山性地震の発生状況（山体付近）

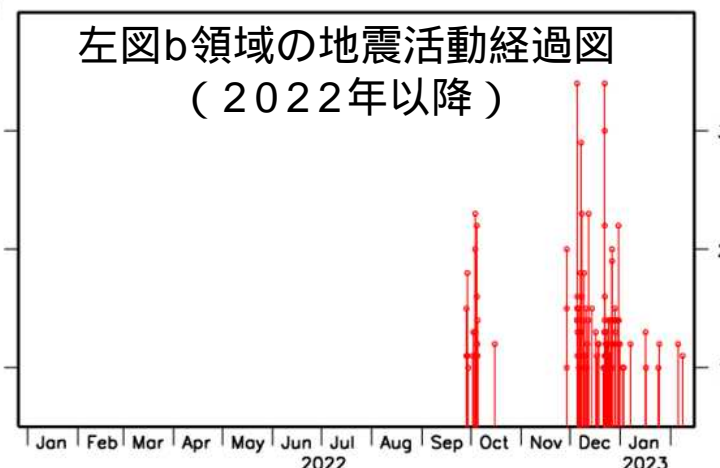
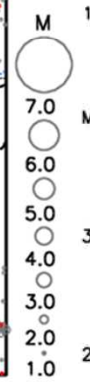
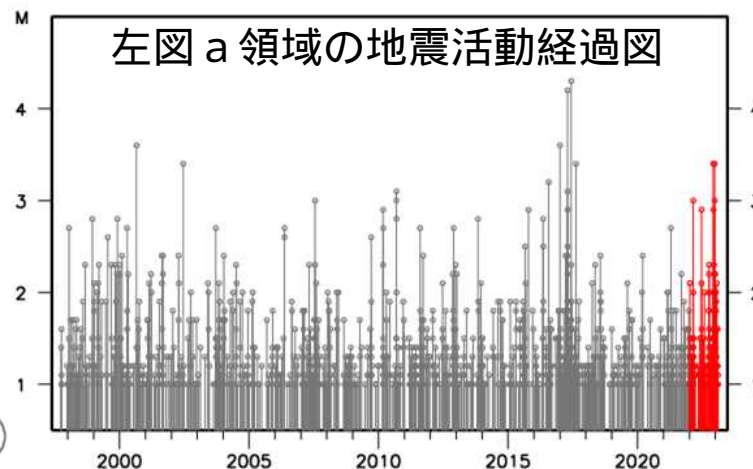
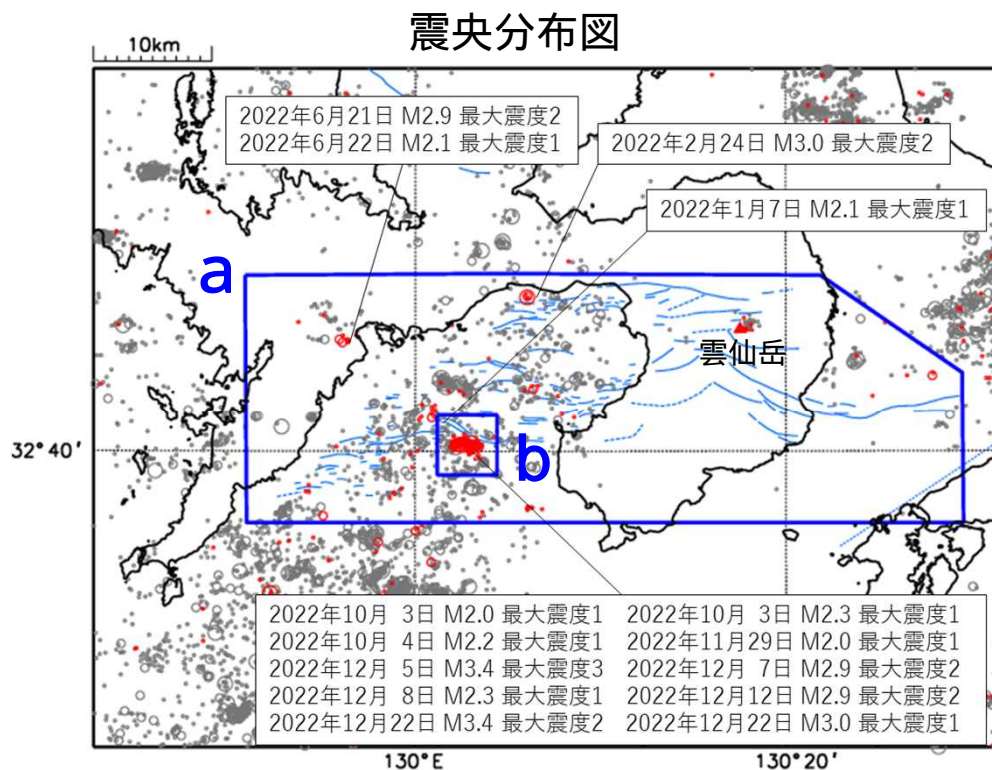


火山性地震の震源分布図（2010年1月～）

赤丸（ ）は2022年1月～2023年2月9日、灰丸（ ）は2010年1月～2021年12月の地震を示しています。

震源は、普賢岳から平成新山直下の深さ 0 km 付近と深さ 1 ~ 2 km に分布しました。

雲仙岳周辺の地震活動

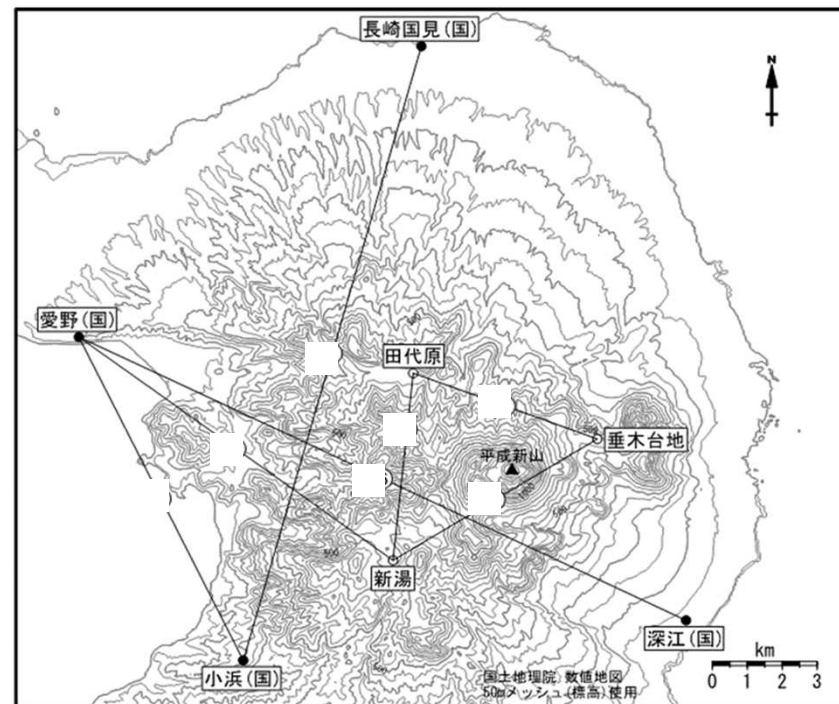
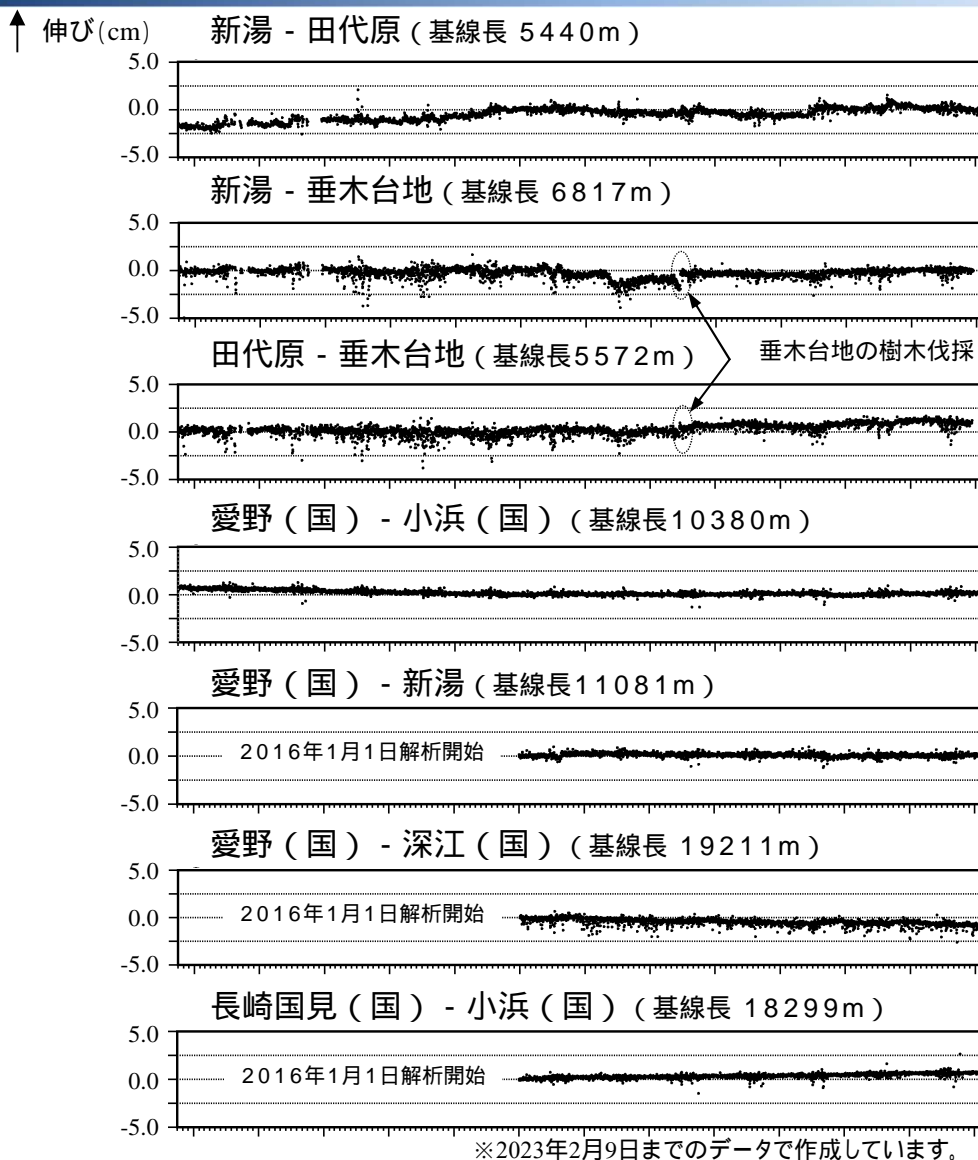


雲仙岳周辺の地震活動 (1997年10月～)

赤丸 () は2022年1月～2023年2月9日、
灰丸 () は1997年10月～2021年12月の地震を示しています。

- ・ 雲仙岳周辺及び雲仙断層群は、定常的な地震活動で経過しています。
- ・ 2022年は、左図 a 領域で計14回の有感地震 (最大震度3) を観測しました。
- ・ 左図 b 領域では、2022年9月末から10月上旬と12月に一時的に地震が増加しました。12月5日の地震では、長崎市で震度3を観測しています。
- ・ 雲仙岳の火山活動に変化はありません。

GNSS連続観測の基線長変化



GNSS連続観測点と基線番号

白丸()は気象庁、黒丸()は国土地理院

GNSS連続観測の基線長変化(2010年10月~)

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められません。

- 火山活動に特段の変化はありません。
2010年頃から普賢岳から平成新山直下の深さ1～2 kmを震源とする火山性地震が時々発生しています。
- 2007年（平成19年）12月1日に発表した噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）以降、予報事項に変更はありません。